

# 成蹊大学新聞



ホームページでも  
記事を公開しております。  
https://www.seikeipress.com

2022年 11月号 NO.329

72ND YEAR (Since 1950)

[2面] スポーツ・特集

第73回四大戦 コーヒー特集 ほか

発行所 成蹊大学新聞会 (2022年11月18日発行) SEIKI University

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話・FAX: 0422-37-3905  
学生会館3階302号室 MAIL: seikeipress@gmail.com

成蹊大学新聞会  
Press

## 第61回 櫛祭 注目企画

### ビンゴ企画

約50年と櫛祭の企画で最も長く続いているビンゴ大会。昨年のオンライン配信を経て3年ぶりの会場での開催となる今回は、19日の午後2時から5号館102教室で行われる。同企画は、小さい子どもからお年寄りまで幅広い年代の人が楽しめるものとなっている。

例年オリジナルストーリーを交えてビンゴを行う同企画。今年のテーマは「ミステリー」だ。謎解きの世界に入り込んだ参加者が、探偵の助手として謎解きに挑戦するというストーリーに沿ってビンゴを行う。また参加者には景品の他に参加賞も用意されている。

運営する櫛祭本部企画局では、当日流す映像や音響の準備、進行役の練習に特に力を入れた。ビンゴ企画を担当する田頭勇基さん(システム2)は本番を迎えるにあたり「公演中のトラブルやミスがないようにするのはも

ちろんだが、お客さんを楽しんでもらえるようにするのが一番だ」と語った。どの参加者も楽しめるようさまざまな工夫を凝らした彼らの熱意で、ビンゴ大会の会場は例年以上に盛り上がることだろう。(山本実玖)

### 模擬店

今年の櫛祭では3年ぶりに飲食物を取り扱う模擬店が出店される。そこで櫛祭本部の管理局長である橋本達也さん(情報科3)に話を伺った。

今回出店される模擬店30店のうち、19店が飲食物を販売。これらは密集しないよう配置されており、営業時間はおおむね午前10時から午後6時を予定している。飲食が認められている場所は第1・第2学生食堂、トラスコンガーデンおよびその前の芝生のみだ。

飲食模擬店の復活は一筋縄ではいかなかった。特に、今年度の幹部である3年生1・コロナ禍前の櫛祭の経験がなかったことに苦しめられたそうだ。一度なくなったものを復活させる難しさを痛感するも、先輩から助言をもらうなどしてなんとか実現にこぎつけた。

当日は各模擬店を巡り、例年以上に衛生管理に気を付けることで安心安全な運営が行えるよう尽力するという。橋本さんは「閉塞感のある大学生活に再び活気が戻ることを期待したい」と意気込みを語った。(高見澤彩人)

### 書道部

書道部は書道パフォーマンスと作品の展示を行う。パフォーマンスは大きな紙の上で曲に合わせて書を書き上げる形式で、学年別にそれぞれ5分間の公演となる。展示は2号館306、307、308教室で行われる予定だ。

19日の開会式で披露される1年生のパフォーマンスでは、例年通り開催を記念して『櫛祭開幕』の文字を書くという。一方、20日午前11時半からの2、3年生のパフォーマンスでは部員が自由にテーマを決める。本番の4カ月前から準備を始め、学年ごとに内容や構成を一から考えてきた。筆の使い方や書き方には部員一人一人の個性が出る。そのため、個性をどう生かし文字に落とし込んでいくかが作品を作る上で非常に重要だ。各学年がどのように魅せるのか、本番に期待したい。

作品展示では、部員が春から秋にかけて書いた作品の他、パフォーマンスで書かれたものも展示される。展示には作者が字に込めた思いやその字を選んだ理由についてのコメントが添えられ、作品の裏側まで楽しめる。

部長の松長実咲さん(現代社会3)は「書道には堅苦しいイメージがあるが実際は違う。書きたいものを楽しんで書いているので気軽に見に来てほしい」と語った。(篠田悠斗)

4人が登壇。小林さんと上田さんは、それぞれ海外での経験を踏まえ、現地の人々の課題や環境問題に対する姿勢について語った。財城教授はサステナビリティに関する本学園の取り組みを紹介。成蹊小学校では栽培活動、高校では気象観測など、体験を通じて環境に対する多様な考え方を育む教育が伝統的に続けられてきたという。

講演後、財城教授は本学のサステナビリティ教育について改めて伺った。本学園では、ユネスコの提唱する「持続可能な開発のための教育(ESD)」に取り組んでいる。中でも財城教授はESDの目標の一つである環境について主体的に学び、思考力や情報の分析能力を育てる授業を展開。学生は、古い地図や文書から土地利用の変遷をたどり、フィールドワークを通じて災害のリスクを検討しているという。そして近年、本学の副専攻制度にSDGs副専攻が加わった。財城教授は「今後選択する学生が増えてほしい」と期待した。(中西幸太)

## MISS SEIKI CONTEST 2022

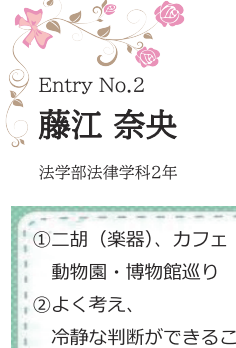
コンテストテーマ: echo

Question  
①趣味  
②アピールポイント  
③本番に向けての意気込み



Entry No.1  
三森 眞子  
文学部現代社会学科3年

①ドラマ・映画・演劇鑑賞、カラオケ  
②誰とでもすぐ仲良くなれる  
③皆さんへの感謝を精いっぱい伝えられるように頑張ります!



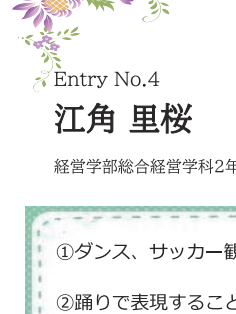
Entry No.2  
藤江 奈央  
法学部法律学科2年

①二胡(楽器)、カフェ・動物園・博物館巡り  
②よく考え、冷静な判断ができること  
③支えてくれた方々への感謝として、培った力を精いっぱい発揮します!



Entry No.3  
安藤 葵咲  
経営学部総合経営学科2年

①旅行、ショッピング  
②チャームポイントの涙袋と黒髪ストレート  
③「自分らしく楽しく」をモットーに最後まで走り続けます!



Entry No.4  
江角 里桜  
経営学部総合経営学科2年

①ダンス、サッカー観戦  
②踊りで表現することが好き  
③最後まで感謝の気持ち忘れず、自分らしく笑顔で頑張ります!



Entry No.5  
森田 祐南  
文学部国際文化学科3年

①YouTube、カフェ巡り  
②ポジティブ前向き  
③たくさん応援していただけるよう、本番に向けて頑張っていきます!

20日の午後1時から広告研究会主催の「ミス成蹊コンテスト2022」(以下ミスコン)が開幕する。おとしと昨年はオンライン配信での開催であったが、今年は大学内の会場とオンライン配信を併用して実施される。

今年のミスコンは「echo」がテーマだ。「響き渡る」ことを意

味するこのテーマには、ファイナリストたちが個性を共鳴させ、それが波紋のように広がることで女性たちに勇気を与えてほしいという思いが込められている。

広告研究会の代表は「最後まで自分らしさを忘れず精いっぱい表現してほしい」と語った。(小川紀寧)

## 短信

### ▼安倍氏逝去に伴い献花台設置

7月8日、本学OBで元内閣総理大臣の安倍晋三氏が銃撃され亡くなった。それに伴い、本学は事件当日にホームページにて追悼文を掲載したほか、翌週には学長から在学中に向けてコメントを送った。また、7月12日から30日まで献花台・記帳台の設置と半旗掲揚を実施。9月27日に国葬儀が行われた際にも、半旗を掲揚した。

献花台と記帳台は本館1階のロビーに用意され、日曜日と祝日を除く午前9時から午後5時に開放された。学生や卒業生から献花や記帳などの弔う場を望む声もあり、本学として哀悼の意を表すため、設置する判断に至ったという。

献花台には本学の学生や卒業生のみならず、成蹊学園の児童や生徒、一般の弔問者などが学内外から訪れた。書き込まれた記帳カードは約7600枚にも及ぶ。献花台は初日から献花で埋め尽くされ、当初の4倍の広さまで増設。世代を超えて多くの人が遺影の前で静かに手を合わせた。(遠藤希希)

### ▼知られざる学園史料館の魅力

学園史料館は本学の歴史に関する貴重な史料を展示している。以前は学外者へも一般公開していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年3月から入館を学園関係者とし、来館希望の学外者には予約制で利用できるよう配慮。当面、予約制を維持する方針だ。なお、本学の学生は開館時間であれば予約せずに利用することができる。

館内では本学創立者である中村春二の生涯や教育の足跡のほか、創立から現在に至るまでの本学の歩みをジオラマや写真を用いて紹介している。展示の目玉である中村春二記念室では、中村が沢尻栄一や牧野富太郎といった著名人と交流があったことを示す史料が並び、2015年のリニューアルからは展示に映像や音声などのデジタル技術を取り入れ、来館者に成蹊100年の軌跡をより分かりやすく伝えている。

寺西浩史料グループ長は「学生生活では多様なことが起きるだろうが、原点に返るといって意味で史料館に足を運び学園の歴史に触れてみるのもよいのではないか」と語った。(前田知哉)

## 並木道

ニュースを見ていると毎年のように感じる。以前であれば今年もかと思いきや、今年は本当に激動の年だと共感する▼2月にはウクライナで戦争が始まり、その影響で小麦や大豆などの価格が上昇。さらに日米金利差の拡大により円安が加速し、水準更新は32年ぶりだそうだ。日々の買い物でも、以前の値段感覚で買えないものが増えたように感じる▼買い物関連の話だと、最近は電子決済を導入する店舗が増加したと思う。チェーン店の大半に加え、個人店でもPayPayであれば使えることが多い。高齢者が多い日本では普及が課題ではあるが、限られた人口で社会を回すためには移行は必然であろう。今後は初心者へのフォローアップビジネスがトレンドになるかもしれない▼こうした激動の社会の中で、私たちができることは限られている。私も現在、自分の就職活動で手いっぱいだが「目の前のことに全力で取り組む」ことを大切にしている。自分の軸を持ちながら目の前の物事に集中することが、自分にとって、ひいては社会にとっても良い結果につながるだろう。(川船英紀)

## 朝日教育会議 持続可能な社会へ教育で貢献

10月22日、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて、朝日新聞社が主催する連続フォーラム「朝日教育会議2022」が開催された。本学が共催となった今回のテーマは「地球規模の思考力を育むサステナビリティを推進するグローバル人材の育成」だった。サステナビリティは日本語で「持続可能性」と直訳され、近年は主に

環境や社会問題を考える際に使用される。フォーラムは基調講演、プレゼンテーション、パネルディスカッションの3部構成で、登壇者はそれぞれの経験から持続可能な社会の担い手を育むために何をすべきかを語った。

基調講演を務めた江川雅子学園長は、講演で「グローバル時代」を多様な国籍や背景を持つ人と協働する時代と定義した。多様性を受け入れ、論理的思考力をもとに対話をする人材が重要だと訴え、スキルを身につけるためにも若い世代には積極的に海外で過ごす経験をしてほしいと語った。

プレゼンテーションでは、司会の森雄一学長、経済学部の財城真寿美教授、本学出身で独立行政法人国際協力機構職員の小林千見さん、イギリスに留学経験のある上田夢香さん(政治4)の



本学の取り組みを語る財城教授

**運転免許 成蹊大生御用達自動車教習所!**  
普通自動車・準中型車・中型車・普通二輪車・大型二輪車 他

2021年東京都内 年間ご利用者数 **NO.1**

24h オンデマンド **ご予約学科**

学生会館で **相談会** 実施中!

武蔵境 自動車教習所

成蹊学園紀伊國屋ブックセンター 提携自動車教習所

0120-15-6343 東京車人

**2022年度 新入部員紹介**

Q. 最近ハマっていることは?

星野佑奈 (政治1) **読書**

前田知哉 (政治1) **DSのポケモン**

